

令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

学校法人 北上学園

1. 設置する学校・学科等

専修大学北上高等学校

普通科・商業科・自動車科

専修大学北上福祉教育専門学校

保育科・福祉介護科

認定こども園 専修大学北上幼稚園

1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 理事会・評議員会の構成（令和4年3月31日現在）

・理事定数 13人以上16人以内

現在数 15人（内、理事長1、常勤理事4）

選任区分 設置する学校・園の長

評議員のうちから評議員会で選任

学識経験者のうち理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

・監事定数 2人

現在数 2人 選任区分 理事会で選任

・評議員定数 28人以上33人以内

現在数 32人 選任区分 設置する学校・園の長

設置する学校の卒業生から理事会で選任

法人の職員のうちから理事会で選任

学識経験者として理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

教職員数

令和3年5月1日現在

	教 員 数					職 員 数						合 計
	本 務				非常勤 講師	本 務					非常勤 職員	
	専任 教諭	特別 講師	常勤 講師	小計		事務長	専任 職員	常勤 職員	専任 技職	小計		
高等学校	42	1	5	48	14	1	2	5	3	11	5	78
専門学校	9	2	1	12	29	※(1)	1			1	2	44
こども園	18		9	27	6	※(1)	1	1		2	3	38
計	69	3	15	87	49	1	4	6	3	14	10	160

※高等学校事務長は専門学校事務長兼務

※高等学校専任職員1名はこども園事務長兼務

【専修大学北上高等学校】

入学定員（300名）の充足を図り、保護者・生徒・教職員の満足度を高めるため、社会に開かれた学校づくりを進め、地域社会に貢献する有為な人材を育てる教育を行う。

令和4年度入学生	普通科	184／185名入学(充足率99.5%)
258名/300名	グローバルビジネス科	56／80名入学(充足率70.0%)
充足率86.0%	自動車科	18／35名入学(充足率51.4%)

1 教育内容の充実について

達成度 B

改革の一番の柱である「学びの改革」の充実に向けて、様々な対策を講じているが、道半ばである。生徒・保護者と良い関係性の中で、満足度を上げて、成果を出すには一層の努力と工夫が必要である。特色ある私学として生き残りをかけて、教員一人ひとりの力量をいかに組織的に上げていくか、引き続き大きな課題として取り組んでいきたい。

(1) 建学の精神を柱とした道德教育を充実させ、豊かな人間性を身につける。

各クラスに建学の精神「報恩奉仕」の説明用紙を掲示し、啓蒙活動を実践し、生きる力を育むと共に、道德教育推進教師を指名して、諸々施策を講じて道德教育を充実させた。

(2) 家庭や関係機関と連携しながら、規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。

毎朝のHRに担任とともに副担任も同席し、服装を始め様々な指導を実践し、朝学習や連絡・指導の徹底を図った。生徒や保護者との面談を充実させ様々な課題解決を図った。

(3) 確かな学力を育成するため、適切な目標を設定し、基礎基本の定着を図る。

マナトレを活用した朝学習に取り組み、基礎学力診断テストを実施し生徒の状況を把握すると共に、個々の状況に応じた、課外や遅進者指導にも取り組み、基礎学力の向上を図った。

(4) 各科の特性を生かした、特色ある教育活動の実践を行う。

普通科では、経済産業省「未来の教室」により、「探究」中心のカリキュラム・マネジメントを実現するための教員の学びのモデルと評価方法の構築、及びその実証を行い成果を収めた。

詳細は経産省HP参照 <https://www.learning-innovation.go.jp/verify/e0113/>

商業科の専北マルシェはコロナ禍にあっても様々な工夫をして実施し好評を博した。自動車科では危険物甲種合格や三級整備士国家試験で、ガソリン 18/19(94.7%) ディーゼル 13/13(100%) シャン 10/12(83.3%) と合格者数・合格率が過去最高の結果を出すことができた。

(5) 普通科特進コースの更なる充実を図り、進学実績の向上を目指す。

一人ひとりの志望を大切に丁寧な指導の成果から、国公立大学(宇都宮大学、埼玉大学等) 7名合格とここ8年で最高の数字を出した。岩手大学の人文社会科学部に前期合格を果たすなど共通テストを突破しての合格が光っている。あと2年であるが最後まで対策を講じて強化を図る。

(6) 多様な能力の開発と個性を伸ばす活躍・経験の場を設定する。

充実した課外活動となるよう、各部・各種委員会等において、工夫を凝らして活動し、成果を上げている。県高総体優勝旗5本(県内1位)、生徒会誌コンクール最優秀賞(県内私学史上初)

(7) ICT環境を整備し、それを活用した教育活動を展開する。

DX推進に向けた基盤整備事業(通称:専北DX推進事業)に向けて、専北DX推進ビジョンの策定に取り組むと共に、タブレット使用により、ロイロノートやClassiを活用した。

(8) 多様な進路目標に対応し、自ら未来を切り開くためのキャリア教育を充実させる。

今年度初めて「探究ウィーク」と称して、「総合的探究の時間」のまとめ取りで、夏と冬の二回集中して取り組んだ。生徒は高校で学ぶ意義や課題解決及び様々な意識の高揚に努めた。

(9) 教育相談態勢の充実を図り、支援が必要な生徒や学校不適應への適切な対応を行う。

学習支援員やスクールソーシャルワーカー(SSWr)を導入し、学年会、養護教諭等と連携し、定期的にケース会議を持ち、関係機関との連携も図り課題の解決に努めた。

(10) 学校評価・授業評価を実施し、改善を図る。

今年度も全保護者に対し Classi を使用し、アンケートを実施し集計後保護者に公表した。
(別紙参照) 授業評価は、全校生徒に Classi を使用し、全教科の授業評価のアンケートを実施し集約後、職員の授業改善と校長が教員の指導に活用した。

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

従前と比べて、研修会の回数や勉強会は増えたが、まだまだ系統立てた研修態勢には至っていない。より一層研修を充実させ、職員の資質・能力の向上に努めていきたい。

(1) 授業を第一に、指導と評価の一体化を図るため、日々授業改善に努める。

管理職による授業見学及び石川一郎先生による授業指導及び各教科カリキュラム改善指導を行った。職員同士の互見授業を実践した。

(2) 生徒の観察に努め、きめ細やかな指導と速やかな対応をとる。

学習支援員を導入し、教育相談室、保健室と連携を密にし、週1回の学年会で報告し、カウンセラーにも相談し、すばやく対処することができた。

(3) 定例の諸会議を有効にし、教員間の連携強化に努める。

会議資料の事前配布とタブレット等を活用したペーパーレス化に努め、効率よく会議を実施すると共に、学年会、校務分掌等を実効性があるように職員の意思疎通、情報共有に努めた。

(4) 校内研修を充実させるとともに、職歴に応じ系統立てた研修を実施する。

定例職員会議や成績生活会議時に、計画的に校内研修を計画した他、自由参加の勉強会も随時実施することで、職員の資質の向上に努めた。

(5) 校外での必要な研修への参加を促し、成果を伝達して共有する。

希望のある校外研修には積極的に参加を促し、研修後は関係職員に対し、研修内容を共有して伝達した。

(6) コンプライアンス（法令遵守）を推進するとともに、働き方改革にも取り組む。

職員会議等で校長からの講話を実施し、ライフステージを尊重した働き方を推進すると共に、朝会等でも事あるごとに具体例を話して法令遵守に努めた。

3 連携強化について（系列校、地域社会、関係機関）

達成度 B コロナの影響により、中止になったものもあるがオンデマンドやリモートなど工夫を凝らし、出来るだけ実施できるように努めた。今後もより一層の連携を様々なかたちで実施して、魅力を高めていきたい。

(1) 系列校との交流により、上級学校への進学動機付けと意欲を育てる。

◇専修大学高大連携 ①70周年記念式典後記念講演の実施（10月）専修大学法学部 坂詰智美 准教授「男・女で髪型は決まっているの？」 ②ニュース専修配布

◇専修大学・系列学校合同説明会 ①専修系列説明会（オンデマンドで実施）（6月）
②専修大学先輩と語る会（リモートで実施）（8月）
③専修大学フェスティバル（オンデマンドで実施）（10月）

◇北上福祉教育専門学校との連携事業 ①学校説明会（保護者向け）（12月実施）
②学校説明会（生徒向け）（1月実施）

(2) 高大及び高専連携授業等を通して、系列校への進学意欲を高める。

◇石巻専修大学高大連携接続科目授業42名受講 受講回数15回／単位認定授与式（2月）

他の連携 ①石巻専修大学での簿記研修 商業科2年（25名）（12月）

②連携出前授業 自動車科1年生「日本・欧米における電気自動車の話題」（1月）

③連携出前授業 商業科1年生(リモート)教授がコロナ陽性の為中止(2月)

④石巻専修大学での実習 自動車科2年生 コロナ感染防止の為中止

(3) 北上幼稚園との交流により、豊かな心の育成を行う。

①北上幼稚園食育交流(8回実施=6月に4回/11月に4回)

②園児との英会話教室(16回実施)

③園児とのサッカー教室(5回実施)

(4) 北上市との提携による、地域社会・関係機関との連携を通して、人材育成に努める。

北上市との強いつながりのもと、市事業ワークショップへの参画や市主催事業への司会派遣、生涯学習センターの「北上マップ」一新を美術部が行うなど、連携を取って種々活動した。

4 広報活動の強化について

達成度 B

ホームページを大きく変えた他、各種申し込みもWEBから行うように改善したが、より情報発信を積極的に行い、方法が定着できるように努めていきたい。

(1) 中学生・中学生の保護者・中学校及び学習塾等への様々な広報活動を展開する。

①コロナウイルス感染予防の為4月の中学校三地区訪問持参せず郵送に切り替えた(32校)

②進路相談会(3回実施=46名/プレゼン対策17名)

③中学校高校説明会へ参加 31校(前年より1校増)

④学校案内パンフレット(カラー30ページ=7000部作製)

⑤生徒募集要項4000部作製

⑥ホームページとブログの充実

(2) ホームページの充実に努め、教育内容を広く世間に知らせる。

70周年事業と連動してホームページのトップ画面や大幅改定を行った。より多くの人に見ていただけるように今後も工夫して情報発信していきたい。

(3) ボランティア活動等に積極的に取り組み、地域への貢献と広報の役割を果たす。

コロナ禍で十分な活動はできなかったが、部活動単位で様々なボランティア活動に取り組んだ。地域貢献と広報の役割を果たすべく一層の充実に努めたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B 校舎の解体工事も始まる中、安全・安心な環境整備に努めたが、完璧とは言えず、まだやれることはあると考える。いじめについては、速やかで組織的な対応を心がけたが、今以上未然防止に努め、いじめ撲滅を図りたい。

(1) 安全管理の徹底と安全教育の充実に図る。

学校安全計画・危機管理マニュアル・防災マニュアルにより安全管理に努め、避難訓練を実施することで、安全教育を充実させた。

(2) 自他の命を大切に、生徒一人ひとりが相互に尊重しあう姿勢の醸成を図る。

グループエンカウンターを行うと共に、全校ガイダンス等で自他の尊重を指導して、互いを尊重する人間関係作りに努めた。

(3) いじめや体罰・暴言の未然防止と実態調査に基づく対応に努める。

いじめ防止マニュアルを作成し、年4回のいじめ調査を実施しいじめ撲滅に努めた。いじめ事案に対しては、速やかに対策委員会を開催し、組織的な対応に努めた。

6 創立70周年事業を、専修大学「社会知性フォーラム」と連携させながら、全校を挙げて取り組む。

達成度 A コロナ禍により、専修大学「社会知性フォーラム」との共催は実現できなかったが、関係各位のご協力・ご尽力により、以下の事業をやり遂げることが出来た。80周年次の10年に向けて、弾みとなった。

(1) 「創立70周年記念実行委員会事業」について(阿部伸委員長=高校校長) ※ 祝賀会は中止

ア 10月8日(金)記念式典さくらホール イ 記念誌発刊 ウ 記念品(シャープペンシル)

エ 記念講演専修大学法学部 坂詰智美 准教授「男・女で髪型は決まっているの？」

- (2) 「創立70周年記念協賛事業」について(高橋勝委員長＝前同窓会長)
- ア 岩手朝日テレビ記念番組(30分番組11月20日(土)放送、12月27日(月)再放送。
 - イ 同上番組のYou Tube番組登録(放送後)及びYou Tube 6秒バンパー広告(9月1日～)
 - ウ 岩手日報全面カラー広告、岩手日日新聞5段カラー広告(10月8日(金)掲載)
 - エ スタンダード1/2ページ広告(12月下旬発売号掲載)
 - オ 学校HP 70周年記念ページ作成企画及び協賛企業紹介

7 スポーツ・文化・学術の主な活動

- | | | |
|-------------|-------------------------|---------------------|
| (1) 硬式野球部 | 春季高校野球県大会 | ベスト8 |
| (2) 軟式野球部 | 県高校総体県大会 | 優勝(6大会連続17度目) |
| | 東北地区高校軟式野球東北東大会 | 準優勝 |
| | 全国高等学校野球選手権岩手県大会 | 優勝(3年ぶり21度目) |
| | 県高校新人大会 | 優勝(4年連続22度目) |
| (3) 卓球部 | 県高校総体県大会(男子団体) | 優勝(9大会連続26度目) ※IH出場 |
| | 県高校新人大会(男子団体) | 優勝(18年連続35度目) |
| | 東北選抜大会3位 | ※全国選抜大会出場 |
| (4) 陸上部 | 高総体 女子4×100mR | 3位 |
| | 県新人 男子5000m | 優勝 |
| (5) ソフトボール部 | 県高校新人大会 | ベスト8 |
| (6) 体操部 | 県高校総体県大会(男子団体) | 優勝(3大会連続25度目) ※IH出場 |
| | 県高校新人大会(男子団体) | 優勝(3年連続28度目) |
| (7) レスリング部 | 県高校総体県大会(男子個人) 125kg級 | 準優勝、60kg級 3位 |
| (8) サッカー部 | 県高校総体(男子) | 優勝(2年ぶり2度目) ※IH出場 |
| | 全国高等学校サッカー選手権大会岩手県大会 | 優勝(2年ぶり2度目) |
| | ※第100回全国高等学校サッカー選手権大会出場 | |
| | 県新人大会(男子) | 準優勝 |
| | 県高校総体(女子) | 優勝(8大会連続8度目) |
| | 県女子サッカー選手権大会(女子) | 優勝(7度目) |
| | 高校女子選手権大会県大会(女子) | 優勝(9年連続9度目) |
| | 高校女子東北選手権大会(女子) | 第3位(6年連続全国大会出場) |
| | 県新人大会(女子) | 優勝 |
| (9) バドミントン部 | 県新人大会 男子団体4位 女子団体 | ベスト8 |
| (10) 吹奏楽部 | 全日本吹奏楽コンクール岩手県大会 | 金賞 |
| | 東北吹奏楽コンクール | 銅賞 |
| | 全日本マーチングコンテスト東北大会 | 金賞 |
| | 全国マーチングバンド・バトントワリング東北大会 | 金賞【ビデオ審査会】 |
| | 全国マーチングバンド東北大会ビデオ審査 | 金賞 ※全国大会出場 |
| (11) 美術部 | 高文祭絵画部門 | 入選 |
| | 全国地域安全モデルポスター | |
| | 「こどもと女性の犯罪被害防止」の部 | 最優秀賞 |
| (12) 書道部 | 高文祭書道部門 | 入賞 |
| (13) 生徒会 | 生徒会誌コンクール | 最優秀賞 |

令和3年度 学校評価アンケート集計結果（高等学校）

（１）実施時期

11月 1日(月) 保護者向け依頼文書を配布、一斉メール・Classi（クラッシー）で保護者へ依頼
 11月 1日(月)
 ～11月19日(金) 保護者がClassiで回答（用紙での回答54枚）
 12月20日(月) PTA会報「緑の風」で集計結果公表

（２）集計結果

各質問の回答を、以下の数に変換して平均しています。

そう思う→5 やや思う→4 どちらともいえない→3 あまり思わない→2 思わない→1

内容	質問項目	R2保護者	R3保護者	R2教職員	R3教職員
教育活動全般	生徒・保護者に「建学の精神」がよく理解されている。	3.47	4.08	3.24	3.22
	本校は、生徒会活動や学校行事が充実している。	3.91	4.47	4.10	3.93
	本校は、生徒の安全・健康に配慮している。	3.87	4.36	3.57	3.69
	教職員は、公平・公正に生徒と接している。	3.72	4.23	3.70	3.63
	いじめ問題への対応は適切になされていると思う。	-	3.87	-	3.71
	専大北上高校の教育活動に満足している。	4.00	4.35	3.56	3.63
進路学習・指導	教育課程や科のコースは、生徒の進路や適性を考えたものとなっている。	3.67	4.47	3.43	3.69
	進路指導において、資料や情報が行き届いている。	3.45	4.18	3.60	3.66
	生徒は、学習方法や学習内容が身につけてきている。	3.07	3.97	3.65	2.76
	生徒は、家庭で学習や課題に取り組んでいる。	2.98	3.60	2.59	2.31
環境教育	校舎・施設等は整備され、教育環境が整っている。	3.41	3.43	2.22	2.58
	校舎内外の清掃・美化は、行き届いている。	4.09	3.85	2.22	2.66
活動広報	ホームページやメール、文書等での情報提供は充実している。	3.55	4.61	2.43	4.15
	地域や中学生に対して、積極的に広報活動が行われている。	4.25	4.16	4.11	4.19
PTA課外活動	本校の部活動、課外活動は、活発に行われている。	3.97	4.63	4.08	4.05
	子どもの所属している部の活動は充実している。	3.57	4.40	4.52	4.14
	PTA活動は、活発で円滑に行われている。	3.57	4.07	3.70	3.80
	PTA行事は、参加しやすい日時、内容になっている。	3.40	3.86	3.54	3.66

回答数 406 460

回答率 62.6% 63.4%

（３）回答内容について

今年度からいじめに関する項目を新たに加えた。昨年度より若干回答率は上がったが、もっと回答していただけるように工夫していきたい。回答結果内容については、多くの項目で昨年度より評価が上がっているが、教育環境及び清掃美化について、いじめ対応、学習に関する部分と広報活動については、課題と受け止め、これからも生徒一人ひとりを大切に、夢や希望の実現に向かって邁進できるよう、日々の教育活動をより一層充実させるべく努力して参ります。(校長)

専修大学北上高等学校

1. 学科名

普通科・商業科・自動車科

2. 学年・学科別在校生徒数

令和3年5月1日現在

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1 年	普 通 科	185	89	77	166
	商 業 科	80	39	37	76
	自 動 車 科	35	20	1	21
	小 計	300	148	115	263
2 年	普 通 科	185	69	69	138
	商 業 科	80	39	49	88
	自 動 車 科	35	25		25
	小 計	300	133	118	251
3 年	普 通 科	185	67	59	126
	商 業 科	80	30	37	67
	自 動 車 科	35	21		21
	小 計	300	118	96	214
	合 計	900	399	329	728

3. 進学・就職の状況（令和4年3月31日現在の進路状況）

(1) 進学状況 150（男子79・女子71）

（ ）は女子内数

区分 \ 学科	普通科	商業科	自動車科	計
大 学	73 (27)	11 (3)	1 (0)	85 (30)
短期大学	3 (2)			3 (2)
専修学校	35 (25)	18 (13)	8 (0)	61 (38)
未 定		1 (1)		1 (1)
合 計	111 (54)	30 (17)	9 (0)	150 (71)

(2) 産業別就職状況 60（男子36・女子24）

（ ）は女子内数

区分 \ 学科	普通科	商業科	自動車科	計
農林漁業	県内			
	県外			
建設業	県内	1 (0)	3 (3)	4 (3)
	県外		1 (0)	1 (0)
製造業	県内	6 (1)	27 (13)	38 (14)
	県外			
情報通信業	県内		1 (1)	1 (1)
	県外			
運輸郵便業	県内			
	県外			
卸売・小売業	県内	1 (1)	5 (0)	6 (1)
	県外			
金融保険 不動産業	県内			
	県外			
宿泊・飲食業	県内			
	県外			
生活関連、 娯楽業	県内	2 (2)		2 (2)
	県外	1 (1)		1 (1)
専門・技術 サービス業	県内	2 (1)		2 (1)
	県外			
複合サービス業	県内	1 (1)		1 (1)
	県外			
公 務	県内			
	県外	3 (0)	1 (0)	4 (0)
合 計	県内	11 (4)	33 (19)	54 (23)
	県外	3 (0)	3 (1)	6 (1)
	合計	14 (4)	36 (20)	60 (24)

(3) 地域別就職者の内訳

()は女子数

学科 地域別	普通科	商業科	自動車科	計
岩手県	11 (4)	33 (19)	10 (0)	54 (23)
宮城県	2 (0)	2 (0)		4 (0)
埼玉県	1 (0)			1 (0)
東京都		1 (1)		1 (1)
合 計	14 (4)	36 (20)	10 (0)	60 (24)

4. 入学試験状況

(令和4年3月31日現在)

学 科	志 願 者 数			入学手続者数		
	男 子	女 子	計	男 子	女 子	計
普通科	367	360	727	88	96	184
グローバルビジネス科	54	60	114	24	32	56
自動車科	46	3	49	18		18
合 計	467	423	890	130	128	258

令和3年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【専修大学北上福祉教育専門学校】

入学定員の充足を図り、社会の発展に貢献する実践的な専門職業人を育てる。

保 育 科	56名入学（定員50名に対し112.0%）
福祉介護科	29名入学（定員40名に対し72.5%）
合 計	85名入学（定員90名に対し94.4%）

1 教育内容の充実について

達成度B

コロナ禍ではあったが、工夫しながら授業、実習等の教育活動を行うことが出来た。
しかし、会議・委員会等は例年通りには行かず、中止や書面開催となり、質の向上に繋げるまでには至らなかった。また、介護福祉士国家試験合格率も全国平均を上回ったものの100%とはならなかったこと、離職者訓練生1名が就職できず100%を維持出来なかったことによる。

（1）学生による授業評価を実施し、授業の質的向上に努める。

前期、後期の年2回、科目ごとに、学生アンケートによる授業評価を実施後、評価結果を集計し授業内容の質的向上に努めた。

（2）実習指導者会議を行い、実習指導者と連携した実習プログラムの開発を行う。

保育科 開催は中止となったが、書面および電話で実習プログラムを確認した。
福祉介護科 2回は開催、2回は資料送付し、実習内容の確認と実習指導のあり方について共通に理解を深めた。

（3）2年間の実習実践内容を総括し「実習実践研究収録」を作成する。

保育科 「実習報告集」を作成した。
福祉介護科 「介護事例発表会報告集」を作成した。

（4）介護福祉士国家試験合格率100%に向け、対策講座を推進する。

国家試験対策講座は時間割に位置づけ、模擬試験を増やすなど強化した。
本校合格率は82.1%（全国平均72.3%、養成校平均65.3%）
受験者28名（日本人21名、留学生7名）、合格者23名（日本人20名、留学生3名）、日本人学生合格率95%、留学生合格率43%

（5）学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を開催し、教育の質的向上に努める。

- ・学校関係者評価委員会を2回開催し、専任講師・職員への自己評価と、非常勤講師、保護者、学生、同窓生、実習施設へのアンケート調査による学校評価の内容を検討し、実施後はアンケート結果の振り返りを行った。
- ・教育課程編成委員会を科毎に年2回開催し、現在のカリキュラムの確認と今後の方向性について検討した。

（6）学生に合わせた丁寧な就職指導により就職率100%を維持する。

- ・保育科は、就職希望者全員が就職、1名が進学した。（100%）
- ・福祉介護科は、就職希望者のうち離職者訓練生1名を除く全員が就職した。（96%）

2 教員の資質・能力の向上について

達成度B

人事評価制度を試行的に導入し、教員個々の自己啓発に繋げることが出来た。また、研究会・研修会・学会等は、オンライン開催が多く手軽に参加することが出来た。

しかし、総合的に見て余裕が無く共通理解にまでは及ばなかったこと、教員研修会が一同に出来なかったこと、公開授業も1回のみの実施となったことで、教員の資質・能力の向上に繋がるまでに至ったとはいえないことによる。

(1) 学内での教員研修会を開催し、一同で教科指導、学生指導、専門士養成の研修を行う。

一同開催は中止となり、資料を基に個別研修となった。

(2) 広く社会に貢献できる人材育成のため、研究会・研修会・学会等へ計画的に参加する。

保育科	日本保育学会 第74回大会（オンライン）	2名参加
	全国保育士養成協議会セミナー、研究大会（オンライン）	1名参加
	全国保育士養成協議会東北ブロックセミナー（八戸市）	1名参加
	全国幼稚園教員養成機関連合会研修会（オンライン）	2名参加
	実習担当者認定会議（オンライン、2日間）	1名参加
福祉介護科	日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会（オンライン）	4名参加
	介護協東北ブロック会教員研修会（中止）	
	介護協外国人留学生受け入れ研修会（オンライン）	1名参加
その他	全国専修学校各種学校総連合会東北ブロック研修会（オンライン）	1名参加
	岩手県専修学校各種学校連合会研修会（盛岡市）	2名参加
	Zoomによるオンライン授業実践研修（2回）	全教員参加
	アンガーマネジメント研修（2回）	全教職員参加

(3) 授業力の向上に向け、公開授業を実施する。

公開授業週間を設定（6月21日～6月25日）し、専任講師（一部非常勤講師）の授業を公開した。授業内容・方法の感想や気付いた点について担当教員に伝えることで、授業実践の向上に繋がった。

(4) 実践及び研究の発表の場として、研究紀要の隔年発行を基本に取り組む。

令和3年4月に研究紀要第6号を発行し、国立国会図書館、全国幼稚園教員養成機関連合会や関係大学（岩手大学等）に配布した。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度A

コロナ禍ではあったが、新規事業を行うなど、工夫して連携をとることが出来た。

北上高校からの入学者は1割に満たなかったものの2桁に達し、園児と学生は、実習以外でも楽しく行き来し交流することができた。また、地域のイベント等が中止となる中、介護ロボット体験の初開催、夢のキラキラ音楽会・介護事例研究発表会を成功に収めることが出来たことによる。

(1) 北上高校との高専連絡会議を設け、本校への進学率1割を目指す。

高専連絡会議は2回実施し、新任教員研修、保育・福祉系進学ガイダンス、1年生全員対象ガイダンス、保護者向けガイダンスを実施した。

本校へは11名（保育8、福祉3）が入学（5%）、内奨学生は4名であった。

(2) 幼稚園移設により、学生が日常的に見学・参加実習する等、多くの交流を目指す。

コロナ禍ではあったが実習の他、園見学2回、2歳児専門学校訪問、3歳児専門学校探検等を通し交流できた。園運動会では駐車場ボランティアの協力を行った。

(3) 石巻専修大学の出張講義（講師派遣）、編入学受入等による連携を図る。

理工学部教授依田清胤先生に集中講義で「自然科学概論」を担当頂いた。

編入学で保育科1名を受け入れて頂いた。

(4) SDGs 実現に向け、北上市と連携を強化して保育・介護の啓蒙及び人材育成を行う。（地域のイベント・ボランティアへの積極的参加、出前、公開講座の開催等）

① 地域のイベント（北上みちのく芸能まつり等） 中止

② 各種ボランティア活動（県障害者スポーツ大会・市図書ボランティア等）

令和3年度は依頼が無かった。

③ 北上市出前講座の登録と実施（中高生・一般向け）

「北上市生涯学習まちづくり出前講座」に2講座登録したが依頼は無かった。

④ 公開講座の開催 中止

⑤ 学園祭の開催

学園祭は中止したが、クラス紹介・自己紹介カードを作成し、廊下に掲示した。

⑥ 介護ロボット体験会初開催

北上市・企業・本校共同主催で3日間（12／13～15）開催し、本校福祉介護科57名、事業所52名の参加の他、保育科学生も見学し、介護ロボット・ICTについて理解を深めた。

⑦ 短歌の取り組み

福祉介護科57名が参加した第31回北上市民芸術祭「北上市民短歌の集い」学生の部では6首、NHK「新・介護百人一首」では4首入選し、ラジオでも紹介された。

⑧ 「ケアニン上映会」開催（介護労働安定センター岩手支部、岩手日報者主催）

福祉介護科57名が参加し、学生インタビューが新聞掲載された。

(5) 実習施設等と連携し、行事への積極的参加や協力を行う。

実習施設の行事（幼稚園・保育園・障害者施設・介護老人福祉施設等）への参加は新型コロナウイルス感染症拡大のため、要請が無かった。

(6) 実習先の園児や先生方、保護者等を招待して保育科「夢のキラキラ音楽会」を開催。

11月19日 さくらホールで実施 北上幼稚園3～5歳児他2園、北上高校生徒数名、保護者他来場 計371名（昨年77名）

（コロナ対策のため観客数を減らして開催した。近隣園にはDVDを配布した。）

(7) 実習先の先生方、保護者、卒業生を招待して福祉介護科「介護事例研究発表会」を開催。

12月17日、さくらホールで例年通り開催し、福祉介護科学生、教員を含め87名の参加となった。教育課程編成委員の先生方に講評を頂き、内容の濃い発表会となった。

4 広報活動の強化について

達成度B

コロナ禍ではあったが、教職員全員が一丸となり、学生募集活動一つ一つの意味を確認しながら、協力して広報活動を行うことが出来た。

しかし、留学生がコロナで入国出来なかったとはいえ、離職者等再就職訓練生の数が伸びなかったこと等、福祉介護科が定員に達することが出来なかったことによる。

(1) WEB広報（HP、ツイッター等）を強化し、戦略の転換を図る。

ホームページ、ツイッター等、更新を定期的に行った。

(2) 報道機関へ情報提供し、メディアの積極的活用を図る。

入学式、卒業式、オープンキャンパス、夢のキラキラ音楽会、介護事例研究発表会等、全ての学校行事の取材案内を市内11ヶ所の報道機関に送付した。

(3) 業者主催進学説明会、相談会へ積極的に参加する。

業者主催の進学説明会に35回参加した。（オンライン説明会を含む）

(4) 同窓会、後援会と連携し、広報活動の展開を図る。

同窓会総会は中止となり協力依頼が難しかったが、実習先やHP等で呼びかけ、新制度「同窓生推薦受験生の受験料免除制度」に同窓生より25名の推薦があった。（全受験生の29%）また、後援会役員会・総会を開催し、本校PRの協力依頼を行った。

(5) 学生募集要項及び学校案内等の充実、作成を計画的に行い、早期完成を目指す。

学校案内は、保護者や高校生が読みやすいデザインに変更し5月上旬に完成した。

(6) 高校教員向けに学校説明会を開催し、高校教員への周知を図る。

6月12日に開催。6校6名が参加し、説明後在校生と懇談した。

(7) 全教員による県内外の高校への訪問（年3回）、出前講座を実施する。

- ・ 岩手県、秋田県、宮城県の高校を1～3回（延べ148校）教員全員で訪問した。
- ・ 出前講座は、花北青雲高校、宮古高校定時制、平舘高校で実施した。

(8) オープンキャンパス参加への積極的PR、学校見学の随時開催を行う。

①オープンキャンパス 総参加人数174名

第1回	5月	保育科	21名	福祉介護科	1名	計	22名
第2回	6月	保育科	13名	福祉介護科	5名	計	18名
第3回	7月①	保育科	14名	福祉介護科	11名	計	25名
第4回	7月②	保育科	14名	福祉介護科	5名	計	19名
第5回	8月	保育科	19名	福祉介護科	10名	計	29名
第6回	9月	保育科	5名	福祉介護科	2名	計	7名
第7回	10月	保育科	2名	福祉介護科	3名	計	5名
第8回	11月	保育科	6名	福祉介護科	5名	計	11名
第9回	3月①	保育科	13名	福祉介護科	6名	計	19名
第10回	3月②	保育科	16名	福祉介護科	3名	計	19名

②オープンフェスタ 中止

③学校見学 岩谷堂高校 23名 杜陵高校奥州校 14名 大槌高校 10名

(9) ハローワークと連携し、社会人への募集活動の推進を図る。

- ・ 離職者等再就職訓練事業へ応募（保育士養成コース、介護福祉士養成コース）し、ハローワークと共同で説明会を2回実施した。（保育4名、福祉3名参加）
- ・ ハローワーク（奥州市、北上市、花巻市、一関市、盛岡市）に対し、電話で学校説明し募集活動を行った。

(10) 外国人留学生の募集活動を推進し、受け入れ体制の整備を図る。

- ・ 留学フェア（仙台市 年2回） 中止
- ・ 仙台の日本語学校を対象にオンライン説明会を1回実施した。
- ・ 盛岡の専門学校日本語学科を訪問し、副校長に説明を行った。
- ・ 留学生4名がオープンキャンパスに参加した。

(11) 学生募集強化委員会を月1回開催し、スピード感をもって学生募集活動を行う。

毎月1回以上、学生募集強化委員会（学校長、科長、入試広報部長）を開催し、広報

活動の企画・運営・評価を実施し、学生募集の強化を図った。

5 安心・安全な環境整備について

達成度A

トイレの改修が2号館のみに終わったものの、校舎の老朽化に伴う環境整備を大きく進めることが出来たこと、W i F i 環境整備も、補助金を活用して一気に行うことが出来たことによる。

(1) 校舎の老朽化に伴う環境整備を計画的実施

(トイレの整備、壁塗装等の修繕、第1体育館解体計画作成等)

- ・ トイレの整備(2号館)、壁塗装(4教室、2号館1階廊下)を行った。
- ・ 第1体育館解体計画は、令和6年度実施に向け計画を作成中である。

(2) 授業のICT活用に向けたW i F i 環境の整備

W i F i 環境の整備が12月に整い、コロナ禍での各クラスのオンライン授業がスムーズに行われている。

6 その他

達成度A

福祉介護科の定員変更、60周年構想委員会は滞りなく行うことが出来たことによる。

(1) 福祉介護科定員の検討

50名→40名へ入学定員の変更を行った。

(2) 令和6年度に迎える60周年の構想委員会発足

構想委員会を2度開催し、内容を検討した。

令和3年度 学校評価(学校関係者)アンケート結果(専門学校)

評価(適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

評価項目			評価平均						昨年度 全体 136名
			学生(2年)	学生保護者	実習施設	同窓会役員	非常勤講師	全体	
			71名	57名	29施設	6名	7名	170名	
1	教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.6	3.6	3.8	3.5	4.0	3.6	3.5
2	学校運営	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7	3.4	3.7	3.3	3.9	3.6	3.4
3	教育活動	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.6	3.6	3.8	3.6	3.9	3.6	3.5
4	教育活動	関係施設等と連携による実践的な職業教育(実習等)が行われているか	3.7	3.7	3.7	3.5	4.0	3.7	3.6
5	学修成果	就職率の向上が図られているか	3.6	3.7	3.7	3.3	4.0	3.6	3.5
6	学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.6	3.7	3.6	3.3	4.0	3.6	3.5
7	学生支援	学生相談に関する体制は整備されているか	3.5	3.6	3.7	3.4	3.8	3.6	3.4
8	学生支援	保護者と適切に連携しているか	3.3	3.3	3.5	3.0	3.5	3.3	3.2
9	学生支援	卒業生への支援体制はあるか	3.5	3.3	3.3	3.2	3.5	3.4	3.3
10	教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.6	3.5	3.6	3.5	3.1	3.5	3.4
11	学生の受け入れ募集	学納金は妥当なものとなっているか	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.3
12	法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3.6	3.5	3.9	3.2	3.7	3.6	3.5
13	社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.5	3.5	3.5	3.7	4.0	3.5	3.5
14	社会貢献・地域貢献	学生のボランティア活動を奨励しているか	3.3	3.2	3.4	3.7	3.8	3.3	3.3
15	社会貢献・地域貢献	公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	3.6	3.3	3.4	3.5	3.8	3.5	3.4

1)調査時期	令和3年12月17日(金)～令和4年1月14日(金)				
2)調査対象	学生、保護者(職業訓練生、留学生を除く)、実習施設等(幼稚園、保育所、高齢者施設等)、同窓会役員、非常勤講師				
3)依頼方法	アンケート調査用紙を手渡しもしくは郵送で依頼し回収した。保護者については、学生を通して担任が依頼、回収した。				
4)回収率	83.3% (依頼数204 回収数170)				
	内訳・学生(2年)		91.00%	(依頼数 78 回収数 71)	
	・学生(2年)の保護者		93.40%	(依頼数 61 回収数 57)	
	・実習施設等		96.70%	(依頼数 30 回収数 29)	
	・同窓会役員		46.20%	(依頼数 13 回収数 6)	
	・非常勤講師		31.80%	(依頼数 22 回収数 7)	
5)有効回答数	170				

専修大学北上福祉教育専門学校

1. 学科名

保育科・福祉介護科

2. 学年・学科別在学生数

(令和3年5月1日現在)

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1年	保 育 科	50	6	38	44
	福祉介護科	50	13	16	29
	小 計	100	19	54	73
2年	保 育 科	50	10	40	50
	福祉介護科	50	5	23	28
	小 計	100	15	63	78
	合 計	200	34	117	151

3. 就職等の状況

(1)就職者数

(令和4年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
就 職 決 定 者	49	27	76
就 職 未 定 者		1	1
合 計	49	28	77

※保育科1名は進学

(2)就職先の内訳

(令和4年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
幼 稚 園	3		3
保 育 園	19		19
認定こども園	17		17
特別養護老人ホーム		17	17
介護老人保健施設		5	5
福祉施設他	10	5	15
合 計	49	27	76

※保育科1名は進学

4. 入学試験状況

(令和4年3月31日現在)

学 科	志 願 者 数			入学手続者数		
	男 子	女 子	計	男 子	女 子	計
保 育 科	4	53	57	4	52	56
福祉介護科	4	25	29	4	25	29
合 計	8	78	86	8	77	85

令和3年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【認定こども園専修大学北上幼稚園】

教育目標（げんきな、おもいやりのある、楽しいようちえん）を具現化し、達成していく。

1 教育内容の充実について

達成度 A

アクティブラーニングについて研修を行い、周知することができた。どのクラスもアクティブラーニングを意識しながら保育計画を実施した。研究部のワークショップ研修で、学年毎に取り組み発表した。職員室にその内容を掲示し、先生方でさらに共有することができた。園内研修も含め、このような研修の取り組みの内容をホームページのブログなどを通して発信するようにしたい。

- (1) 教育課程にアクティブラーニングを取り入れて、指導法の改善を行う。
 - ・教務部（アクティブラーニング）と研究部（環境構成）とタイアップして、活動にアクティブラーニングを取り組んだ。
- (2) 毎日の「反省会」による保育の省察を行い、ヒヤリハット報告も行う。
 - ・ヒヤリハットの報告を行い、日々の安全指導に努めた。
- (3) 園内研修のテーマは「環境構成」とし、個人研究（年1回）長期休業中の研修会（年2回）を計画的に進める。
 - ・個人研究は、計画より1回多い年2回実施し、研修を計画的に行い、理解を深めた。
- (4) 保護者の学校関係者評価を実施し、結果を教職員全員で共有し、改善をする。
 - ・学校評価を真摯に受け止め、改善を図っている。

2 教員の資質・能力向上について

達成度 B

園のグランドデザインについて共通理解をしたうえで、保育に取り組むことで職員同士、専修大学の建学の精神を大切にし、具現化した保育目標に向かって保育を行うよう心掛けることができた。

こども園1年目のため、手探り状態で試行錯誤の連続であったが、全体を考え、提案したり、行動したりする職員を認め合う関係作りを今後も継続していきたい。

- (1) 専修大学の建学の精神をもとに、感謝と社会に貢献する心を持つ教員を養成する。
 - ・全体で専修大学建学の精神の理解を深め、学年毎に園のグランドデザインを共通理解したうえで保育に努めた。
- (2) 知能や技能を有し、いろいろな引き出しがある教員を目指す。
 - ・個人個人で、努力し様々なことを吸収しようとした。
- (3) あらゆる人と協同研修ができる教員を目指す。
 - ・こども園になり職員が増え、シフトによる勤務となったが、その中で研修の持ち方など係が工夫をし、共同研修を行うことができた。
- (4) 園外研修の積極的参加
 - ・担当者が色々と考え計画を立て参加者の偏りがないようにしながら、各種研修に参加することができた。

- ・キャリアアップ研修もコロナ禍のためリモートであったが個々で受けることができ、それぞれ必要な分野を受講することができた。
 - ・コロナ禍のため参加者限定（一人）となったが、黒西小学区の保育園の見学をすることで良い刺激となり、保育に生かされている。
- (5) 教職員の自己評価の実施を行い、自己評価の結果によりPDCAを反省し、改善を図る。
- ・個人評価をすることで、PDCA を活かし、次へ向けて課題が明確となり改善策を考えることができた。
- (6) 学年のミーティング・職員会議による職員のチームワークを醸成する。さらに、職員間の連携強化を図り、互いに信頼し合える職場づくりを目指す。
- ・こども園となり全員集まっていた職員会議は難しかったが、会議に参加できなかった職員へも内容が伝わるように書面化し、大事なことは口頭で伝えるよう努力した。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 A

専門学校や高校、小学校、地域等との連携強化を図った。園児にとってもいろいろな方と接することで成長し、学生等にとっても新鮮な交流になった。

地域の職場（消防署、北上駅、警察署、図書館他）を訪問し、日頃の感謝を表すことができた。

地域の方は、仕事の忙しいところ対応していただいたが、大変喜んでもらったと思う。

- (1) 専門学校の実習指導は職員一人一人が指導教官として意識を持ち学生指導にあたる。
- ・先輩保育士として、社会に貢献できる先生に育てるという温かい気持ちで実習生を迎え入れ、指導する気持ちを持つことが、今後も大事であると思われる。
- (2) 高校・専門学校との連携による各種教室の実施
- ・サッカー教室、調理教室等は感染予防に考慮しながら、高校生と交流を持ち楽しく行うことができた。
 - ・お茶会はコロナ感染拡大防止を考慮して園の各クラスで行った。
 - ・うんどう教室は、色々な動きを通して体力（調整力）を養うことができた。
- (3) 小学校、保育所、老人施設（遊戯を披露）との交流事業を推進する。
- ・小学校との交流として、校舎見学と1年生の教室を見学した。雰囲気や様子を実際に感じる事ができた。
- (4) 老人施設で遊戯を披露する。
- ・コロナ感染拡大防止のため中止となる。
- (5) 地域の職場（消防署、北上駅、警察署、図書館他）を訪問し、日頃の感謝を表す。
- ・今年度は、コロナ感染予防のため、職場の行き先や感染状況を見ながら行った。
- (6) 高校生との交流事業を推進する。
- ・コロナ禍ではあったが、受け入れることができた。
- (7) 中学生の体験学習の受け入れを行う。
- ・令和3年度の受け入れはなかった。
- (8) 北上市復職プログラム研修の受け入れを行う。
- ・令和3年度の受け入れはなかった。

4 広報活動の強化について

達成度 B

コロナ禍の中で、園庭開放を行うことには疑問を持ちながらだったが、開催した。毎回、数組の参加だったが、園でコロナ感染者が出ていなかったため参加があったのだと思う。安心・安全な園になるように努めていきたい。

園庭開放のみならず、未就園児教室やプロによる運動教室、子育て講演会等を工夫し、地域に開かれたこども園になるように努めたい。

(1) 未就園児への園庭開放を行い、子育て支援の充実を図る。

- ・未就園児への園庭開放について、年12回（中止になったため10回）行い、地域に開かれた認定こども園として子育て支援を行うことができた。

(2) ホームページでの情報発信と行事等は積極的に報道機関に依頼し、広報活動を行う。

- ・令和3年度に認定こども園へ移行し、ホームページもリニューアルした。在園児向けや未就園児向けの園からのお知らせなどをホームページから閲覧できることで、当園の様子を多くの方に情報発信することができた。お茶会、生け花教室などの様子を、報道機関に取り上げていただくことで当園の魅力を発信できた。引き続き報道機関に依頼し、広報活動を行っていく。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 A

月に1度の避難訓練を徹底して行ったことで、避難の仕方が身に付き、行動することができるようになった。保育者も毎月の避難訓練の反省をすることで意識して次に生かしながら、改善できるように考え、取り組むことができた。

ヒヤリハット、クライシスマネジメント等もその都度、反省会で共有してきたことで気をつけるように子どもたちに伝えながら生活することができた。

(1) 月1回安全点検を行い、園内外の安全を図る。

- ・園内の安全点検を月1回、各担当を決めて行ったことで、保育者自身が園内外の危険箇所等に気づき、確認することができた。しかし、気づきを点検した職員以外にも共有していく必要がある。

(2) 非常災害時における安全な避難方法（引き渡し含む）を理解させ、行動できるようにさせる。

- ・今年度初めての取り組みであった引き渡し訓練は、保護者にねらいの理解や協力をお願いする文書を配布することで、理解していただき協力を得て行うことができた。生活指導部のみならず、全員で協力して良案を出してもらい、大きな混乱もなく行うことができた。

6 今後のこども園について

達成度 B

本園では、0歳児保育の運営を令和5年度からスタートする。令和3年度は、保育目標や教育課程の作成、保育環境の整備などに取り組んできた。来年度の0歳児クラスの順調なスタートを目指して、万全の準備を進めなければならない年度と位置づけられる。

(1) 令和5年度、0歳児受入れのソフト面の整備に向けた、運営計画案を作成する。

- ・0歳児クラスの開設にあたって令和3年度は、保育目標や教育課程の作成、保育環境の整備などに取り組んできた。0歳児保育を実施している先進園の実践や保育のノウハウを学ぶとともに、本園における研修及び組織づくりの取り組みを強化しなければならない。

(2) 子育て支援室の機能を拡充し、地域に根ざした園づくりに努める。(ひろば型)

- ・開かれた園づくりを目指して、園庭開放事業などに取り組むとともに、広報活動の一層の強化を図り、入園児を確保する。初の0歳児クラスの運営となるだけに様々な困難も予想されるが、その一つ一つにしっかり向き合い、改善を図りながら保護者の要望や信頼に応えていきたい。

以 上

令和3年度 学校評価アンケート結果（こども園）

			1 そう思う	2 おおむねそう思う	3 どちらかといえばそう思わない	4 そう思わない	5 無回答
園経営に関するもの	1	園は教育方針を分かりやすく伝えている	69.5%	28.0%	1.5%	0.5%	0.5%
	2	園は充実した活動を行っている	71.4%	27.1%	0.5%	0.5%	0.5%
	3	園の教職員は互いに協力し、日々の教育活動を行っている	78.3%	19.7%	0.0%	0.5%	1.5%
	4	園は子どもが安全に過ごす為の環境整備に努めている	85.2%	13.8%	0.0%	0.5%	0.5%
	5	園は交通安全や地震、火災などの安全の指導をしている	85.7%	13.3%	0.0%	0.5%	0.5%
	6	園の様子は園・学年だよりなどでよく知ることができる	62.0%	35.5%	1.0%	1.5%	0.0%
	7	園は家庭への連絡や意思疎通に努めている	73.4%	25.6%	0.5%	0.5%	0.0%
園生活に関するもの	8	子どもは園に喜んで通っている	79.3%	17.7%	2.0%	0.5%	0.5%
	9	子どもは園での遊びを楽しんでいる	89.0%	9.0%	1.0%	0.5%	0.5%
	10	子どもは園で様々な活動に喜んで参加している	86.7%	10.8%	1.0%	0.5%	1.0%
	11	園生活を通してルールを学ぶなどの指導が適切に行われている	77.8%	19.7%	0.0%	0.5%	2.0%
	12	園行事は子どもの発達段階や興味・発達に応じたものになっている	73.4%	24.6%	0.5%	0.5%	1.0%
	13	子どもは園の様々な体験を通して心動かされている	81.3%	17.7%	0.5%	0.0%	0.5%
	14	子ども一人ひとりを大切に受け止めた指導を心がけている	74.5%	22.5%	0.5%	0.5%	2.0%
保護者に関すること	15	保護者は園の教育方針に関心をもっている	60.6%	37.9%	0.5%	0.5%	0.5%
	16	家庭では、早寝、早起き、朝ごはんなど基本的な生活習慣に取り組んでいる	58.1%	25.1%	16.3%	0.5%	0.0%
	17	家庭では、おはよう、ただいま、おやすみ、ありがとう等の挨拶を励行している	80.8%	19.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	18	家庭では、ふわふわ・ちくちくことばの理解をしてことばに気をつけている	38.9%	55.7%	4.4%	0.0%	1.0%
	19	保護者は園の行事など積極的に参加している	67.5%	30.5%	1.5%	0.5%	0.0%
	20	保護者は子育てについて身近な人に相談している	60.6%	31.5%	5.9%	2.0%	0.0%

令和3年度 決算の概要

「資金収支計算書」

(1) 収入の部

収入の部では、当年度収入合計が予算比 1.3% 増の 1,117,452,455円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では予算比 13,986,455円増の 1,947,941,073円となっている。

学生生徒等納付金収入

予算額 459,890,000 円 決算額 468,084,500 円 差異 8,194,500 円 増
納付金完納者数は高等学校 721名、専門学校 128名、こども園 213名。

手数料収入

予算額 12,790,000 円 決算額 11,817,300 円 差異 972,700 円 減
志願者数は、高等学校 890名、専門学校 61名。

寄付金収入

予算額 7,400,000 円 決算額 31,644,097 円 差異 24,244,097 円 増
主に高校校舎建替一体整備事業資金募金による。

補助金収入

予算額 522,548,000 円 決算額 537,944,808 円 差異 15,396,808 円 増
補正予算後の内示による高等学校補助金等の増による。

資産売却収入

予算額 0 円 決算額 400,000 円 差異 400,000 円 増
こども園マイクロバス売却による。

付随事業・収益事業収入

予算額 35,100,000 円 決算額 37,810,014 円 差異 2,710,014 円 増
高等学校特別会計の自動車整備工場からの繰入等による。

受取利息・配当金収入

予算額 10,000 円 決算額 30,238 円 差異 20,238 円 増
預金利息による。

雑収入

予算額 38,422,000 円 決算額 39,709,739 円 差異 1,287,739 円 増
依頼退職者の(社)岩手県私学振興会よりの退職交付金等による増。

前受金収入

予算額 54,660,000 円 決算額 48,010,000 円 差異 6,650,000 円 減
令和3年度入学予定者の入学(園)一時金で、高等学校258名、専門学校61名、こども園58名。

(2) 支出の部

支出の部では、翌年度繰越支払資金を除いた当年度支出合計が、予算比 112,877,870円 減の 1,229,433,130円となっている。

人件費支出

予算額 727,247,000 円 決算額 713,360,434 円 差異 13,886,566 円 減
所定福利費の減。

教育管理経費支出

予算額 330,440,000 円 決算額 308,053,996 円 差異 22,386,004 円 減
コロナ感染拡大に伴う出張等の中止による減。

借入金等利息支出

予算額 310,000 円 決算額 300,832 円 差異 9,168 円 減
認定こども園園舎建築資金借入に伴う支払利息による。

借入金等返済支出

予算額 11,004,000 円 決算額 11,004,000 円 差異 0 円
認定こども園園舎建築資金借入に伴う返済による。

施設関係支出

予算額 85,670,000 円 決算額 12,767,182 円 差異 72,902,818 円 減
高校校舎建替一体整備事業設計料支払いが令和4年度となったことによる減。

設備関係支出

予算額 136,180,000 円 決算額 136,236,617 円 差異 56,617 円 増
高等学校エアコン設置及びこども園通園バス購入等による。

資産運用支出

予算額 55,000,000 円 決算額 55,000,000 円 差異 0 円
第2号基本金引当特定資産繰入支出及び法人基金準備資産繰入支出による。

その他の支出

予算額 33,652,000 円 決算額 33,669,076 円 差異 17,076 円 増

「事業活動収支計算書」

前記の資金収支計算書と共通の科目があるので、事業活動収支特有のものについて説明。

1. 教育活動収支

収入の部では、予算比 3.1%増の 1,044,238,037円となり、支出の部は、予算比 3.1% 減の 1,154,719,592円となった。教育活動収支差額は、予算比 38.2% 増の△110,481,555円となった。

(1) 事業活動収入の部

寄付金

予算額 5,500,000 円 決算額 10,175,940 円 差異 4,675,940 円 増
施設設備寄付金及び施設設備の現物寄付を除いた特別寄付金による。

経常費等補助金

予算額 461,554,000 円 決算額 476,745,808 円 差異 15,191,808 円 増
施設設備補助金以外の補助金となる。

付随事業収入

予算額 35,100,000 円 決算額 37,730,150 円 差異 2,630,150 円 増
高等学校自動車整備実習工場の棚卸品等が含まれる。

(2) 事業活動支出の部

教育管理経費

予算額 464,759,000 円 決算額 441,359,158 円 差異 23,399,842 円 減
減価償却額 133,455,494円が含まれる。

2. 教育活動外収支

収入の部では、予算比 302.4% 増の 30,238円となり、支出の部は、予算比 3.0% 減の 300,832円となった。

教育活動外収支差額は、予算比 9.8% 増の △270,594円となった。

経常収支差額では、予算比 38.2% 増の △110,752,149円となった。

3. 特別収支

収入の部では、予算比 35.9% 増の 87,195,461円となり、支出の部は、2,011,344円となった。

特別収支差額は、予算比 36.4% 増の 85,184,117円となった。

(1) 事業活動収入の部

資産売却差額

予算額 0 円 決算額 400,000 円 差異 400,000 円 増
こども園マイクロバス売却による。

その他の特別収入

予算額 64,169,000 円 決算額 86,795,461 円 差異 22,626,461 円 増
施設設備寄付金及び現物寄付及び施設整備補助金による。

(2) 事業活動支出の部

資産処分差額

予算額 1,699,000 円 決算額 2,011,344 円 差異 312,344 円 増
耐用年数の経過した機器備品等の設備処分差額による。

「貸借対照表」

貸借対照表は、令和4年3月31日現在の資産・負債・基本金等の状況を前年度末と対比して表示している。

この表は、資産の部・負債の部・純資産の部・負債及び純資産の部からなり、増減の△は減を示している。

資産の部

本年度末金額	4,292,140,301 円	前年度末金額	4,319,764,297 円	差異	27,623,996 円	減
--------	-----------------	--------	-----------------	----	--------------	---

前年度末に対し 0.6%の減。

資産には固定資産と流動資産があり、
固定資産は

本年度末金額	3,502,375,985 円	前年度末金額	3,430,647,480 円	差異	71,728,505 円	増
--------	-----------------	--------	-----------------	----	--------------	---

前年度末に対し 2.0%の増。

流動資産は

本年度末金額	789,764,316 円	前年度末金額	889,116,817 円	差異	99,352,501 円	減
--------	---------------	--------	---------------	----	--------------	---

前年度末に対し12.6%の減。

負債の部合計

本年度末金額	203,487,050 円	前年度末金額	205,543,014 円	差異	2,055,964 円	減
--------	---------------	--------	---------------	----	-------------	---

前年度末に対し1.0%の減。

固定負債は

本年度末金額	90,684,872 円	前年度末金額	104,139,608 円	差異	13,454,736 円	減
--------	--------------	--------	---------------	----	--------------	---

前年度末に対し14.8%の減。

流動負債

本年度末金額	112,802,178 円	前年度末金額	101,403,406 円	差異	11,398,772 円	増
--------	---------------	--------	---------------	----	--------------	---

前年度末に対し10.1%の増。

純資産の部合計

本年度末金額	4,088,653,251 円	前年度末金額	4,114,221,283 円	差異	25,568,032 円	減
--------	-----------------	--------	-----------------	----	--------------	---

前年度末に対し 0.6%の減。

基本金

本年度末金額	4,943,606,978 円	前年度末金額	4,912,087,415 円	差異	31,519,563 円	増
--------	-----------------	--------	-----------------	----	--------------	---

前年度末に対し0.6%の増。

繰越収支差額

本年度末金額	△854,953,727 円	前年度末金額	△797,866,132 円	差異	57,087,595 円	減
--------	----------------	--------	----------------	----	--------------	---

前年度末に対し6.7%の減。

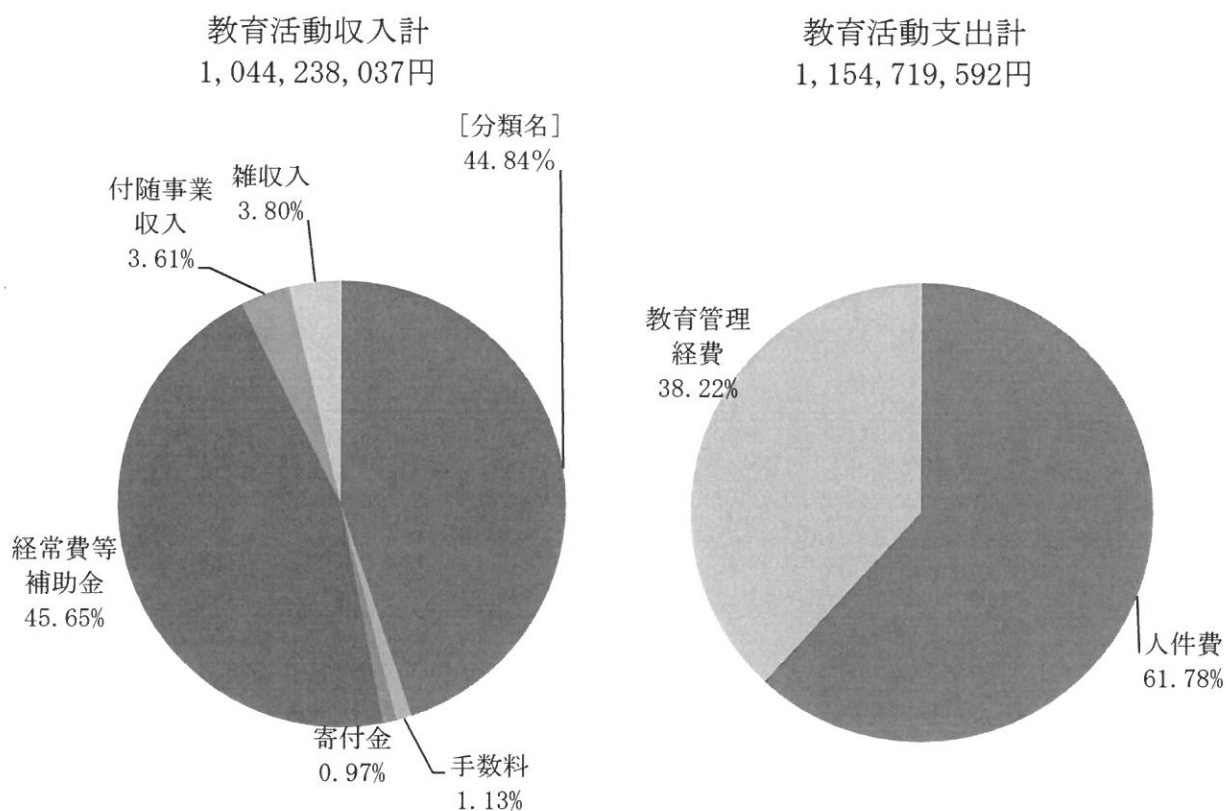
負債及び純資産の部合計

本年度末金額 4,292,140,301 円 前年度末金額 4,319,764,297 円 差異 27,623,996 円 減
前年度末に対し 0.6%の減。

以 上

(表 1)

令和 3 年度 事業活動収支科目別構成グラフ



(表 2)

主 要 財 務 比 率

比 率	算 式 (× 100)	令和元年度 (決 算)	令和 2 年度 (決 算)	令和 3 年度 (決 算)
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	74.72% (64.9%)	70.50% (64.3%)	68.31%
人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}$	141.01% (124.2%)	135.28% (120.6%)	152.40%
教育管理経費比率	$\frac{\text{教 育 管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	35.36% (28.9%)	40.10% (27.7%)	42.26%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	-8.14% (1.0%)	20.33% (3.6%)	-2.26%

※ 経常収入は、教育活動収入計と教育活動外収入の合計

※ () 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による高等学校部門平均値を示す。